

令和 7 年 1 0 月定例会会議録

(令和 7 年 1 0 月 2 7 日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 10月定例会会議録

【開催日】 令和7年10月27日（月）

【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室

【出席者】 中 勇 二 教育長
渡 邊 裕 一 教育委員
早 田 螢 教育委員
澤 村 互 寛 教育委員
丸 山 智 子 教育委員

【出席職員】 田 中 智 樹 教育部長
鋤 田 敦 信 教育部次長
下 津 恵 美 教育部次長
押 方 佐地子 教育政策課長
加 賀 真 一 学校教育課長
稲 本 健 一 教育部理事兼教育施設課長
泉 宜 孝 生涯学習課長
中 村 裕 一 教育サポートセンター所長
田 島 良 洋 博物館未来の森ミュージアム副館長
植 田 浩 之 未来の学校づくり推進室長
松 岡 長 武 教育政策課長補佐

【事務局】 池 田 拡 次 教育政策課主幹兼教育政策係長
浦 本 美代子 教育政策課参事

（審議事項）

<議案案件>

- ① 八市教委議第26号 八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会委員の任命について
- ② 八市教委議第27号 八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について

<協議案件>

- ① 協議第7号 第4期八代市教育振興基本計画（素案）について

1. 開会 (午後2時00分 開会)

2. 会議録承認 令和7年8月定例会

3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

4. 議題

＜八市教委議第26号＞ 八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会委員の任命について

田島博物館未来の 八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会委員の任期満
森ミュージアム副 了に伴い、新たに委員を任命する。
館長

質問等なし

【八市教委議第26号 承認】

＜八市教委議第27号＞ 八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について

加賀学校教育課長 八代市いじめ防止等対策委員会委員の任期満了に伴い、新
たに委員を委嘱する。

質問等なし

【八市教委議第27号 承認】

＜協議第7号＞ 第4期八代市教育振興基本計画（素案）について

押方教育政策課長 第4期八代市教育振興基本計画（素案）について、資料に
より説明

早田教育委員 児童生徒へのアンケートについて、子供たちがどう考えて
いるか、教育委員会が感じている課題の現状と子供たちの感
じていることが合致しているかどうか分かり、大変よいと
思う。アンケートを取ることは、とても大変であり学校の負
担にもなると思うが、子供たちの姿や先生方の姿が分かるこ
とが一番大切なことであると思うので、大変ありがたい。

アンケート結果で気になった点があった。学校のルールや
決まりがおかしいと感じることがあると答えた中学生が
25%であり、少し多いのではないかと思った。また、基本
的な方向性5 安全・安心な学校づくりの教育の数値目標で
あるが、以前はマイタイムラインの作成率などであったが、
防災教育においては、子供たちの行動や考え方が変わったと
いうことが大事であるため、そのような項目にしたほうがよ
いのではないかと提案したところ、それが分かるような項目
にしていると感じている。一方で、防災に関する
避難訓練の実施率は現状で100%、防災教育の実施率は9
7.4%であり、現状がほぼ100%である。維持すること
も大事であるが、もっと課題を解決していくような指標にし

たほうがよいのではないかと思います。避難訓練については、おそらく学校は100%実施していると思う。避難訓練は、自然災害ではなく火災に対しての訓練であったりするので、どのような訓練をしたかという項目にするとよいのではないかと。また、防災教育についても、理科や社会の教科書に防災の項目があるので、ほとんど実施できる状況である。実施したところで子供たちがどう変わったか、家庭で話したかなどが分かるような項目がよいのではないかと思います。

押方教育政策課長 数値目標については、いただいたご意見を踏まえて再考したい。

渡邊教育委員 まず、大きな部分で、計画の位置づけについて、八代市教育大綱と総合計画がイコールとなっているが、これでよいのか疑問に思った。次に、基本的な方向性が8つに絞ってある。前回よりかなり集約してあり、とても分かりやすくてよいと思う。方向性の1から8まで中身を見ていくと、ボリュームがかなり異なる。特に、今回、英語教育の充実には力を入れていると話が合ったとおり、方向性3は英語教育のみで構成してある。前は学力のところに入っていたかと思う。このボリュームの違いについては、特に話題にならなかったらうか。方向性3は、教育委員会として、ぜひこれはという点が見えてよいのだが、少し気になった。3点目は、「生きる力」について、学習指導要領で目標としているが、あまり出てこない。単語自体も幼稚園のところで少し出てくるが、あえて記述を少なくされたのだろうか。疑問に思った。

押方教育政策課長 位置づけについては、イコールではなく統合であるので、表記は見直したい。次に、基本的な方向性ごとのボリュームについて、プロジェクトチームや検討部会でも差があることは議題になった。方向性1は教育の根幹であり、ボリュームの違いがあっても致し方ないと整理をしたところである。方向性3については、本市の子供たちの英語力が課題であることは総合教育会議でも意見が出ており、特出しして方向性に設定した。また、外国語教育の充実だけではなく、国際教育の充実という点を付加した。交流先として、本市の友好交流都市である新竹市が増えたこともあり、国際交流の機会を踏まえて、八代市の子供たちが世界で活躍できるような人材に育ててほしいという思いをこめて設定した。「生きる力」については、県の基本理念にも記載があると思われる。再度、検討部会で検討したい。

中教育長 「生きる力」は、学習指導要領に記載されて30年ほどになる。必ずどこかに出てこないといけないワードであると思

うので、しっかりその精神が基本計画に入っていることを表せるようにしていただきたい。

渡邊教育委員 方向性の3は嬉しく思っている。教育委員会の考えが学校にきちんと伝わるように、説明のときも強く伝えていただきたい。

澤村教育委員 非常によくまとめてあると思う。お尋ねであるが、基本的な方向性の見出しに、目標1から5の丸があり、色付けしてあるところは、この方向性が色付けした目標に対応しているというイメージでよいだろうか。全体的にバランスを見ながら、方向性を設定してあるということではよいだろうか。

押方教育政策課長 そのとおりである。全ての目標が達成できるよう、基本的な方向性で目標が達成できると思われる番号に色付けをしている。

澤村教育委員 視覚的に大変分かりやすい。質問であるが、方向性1の数値目標の項目にある、学校が認知したいじめの件数のうち、解消したいじめの件数の占める割合について、60.9%となっているが、いじめの解消とは、いじめの調査時点の数値であるか、学年末時点の数値であるのか。印象として、いじめの解消が少ないのではないかと感じた。60%ということは、10人のうち4人は解消していないということである。いじめの解消は、基本的には100%にすべきであると思うが、現実的には難しい。それにしても、令和11年度の目標数値が75%でよいのかと思ったところである。

加賀学校教育課長 いじめの解消について、令和4年度以降、解消の定義が変わった。いじめの行為がなされていないこと、身体的、精神的苦痛を受けていないこと、一定期間経過していること、となった。一定期間とは3ヵ月であり、12月の調査で認知した案件は、年度をまたいでしまう。また、県の追跡調査が行われなくなった。年度を明けると100%に近い解消率となっていると思われるが、年度末の数値としては、調査方法が変わったことによるものである。市民の方が、いじめへの取組がなされていないのではないかと捉えられかねない部分であると思っている。

澤村教育委員 調査方法が変わったことで、実際は解消しているのにこのような数値になるのは、市民の方としては疑問に思われるかもしれない。実際は、年度初めは100%近く解消しているということではよいのか。

加賀学校教育課長 年度初めは、認知件数はほとんどないため、4月、5月に認知件数が0件となった場合は、解消していると捉えてよいと考える。

中教育長 市の4年間の公式な計画のなかで、毎回説明しないといけないような数値について、国が調査方法を変えたから、この数値で仕方ないという説明をしても納得いただけるのか、心配なところである。ここ数年、国の調査に則って出してきた数値は致し方ないとして、市教育委員会として、解消されたかどうかを押さえる必要はあるのではないかと思う。追跡調査を行うなどの方法を検討したほうがよいのではないか。数値をみると6割しか解消していないのか、あとは続いているのかと思う。説明を聞くと、理由は分かるが納得されるだろうか。これを機会に、解消したかどうかを押さえることができないかを検討していただきたい。一人一台のタブレットを使った心のアンケートのようなことができないか、検討していただきたい。

加賀学校教育課長 すっきりする数値ではないため、教育委員会内でも検討したい。いじめ、不登校の解消については、大きな課題の一つであるため、しっかり情報が共有できるよう進めていきたい。

丸山教育委員 今日の時点では、整合を図ろうとしている教育大綱と総合計画との関連が分からない。整合を図るということで、同時進行で作業をされていると思うが、教育大綱はどのようなレベルのものになるのだろうか。今回、基本理念や基本的な方向性を定めてあるが、どのようにリンクしていくのか教えていただきたい。

押方教育政策課長 総合計画は、教育振興基本計画の基本目標レベルのものだけを示すという方針が示されている。教育振興基本計画の基本目標を基に、総合計画で打ち出す基本目標と整合が取れた内容を企画政策課に提出している。

丸山教育委員 5つの基本目標がそのまま、同じものが掲載されるということだろうか。

押方教育政策課長 全く同じものではなく、これを統合したりする。

松岡教育政策課長 現在の第3次八代市総合計画の状況を説明したい。企画政策課から、第2期基本計画の施策の体系をそのまま現状に沿ったかたちで調査がきている。それによると、施策は、1. 学校教育の充実と環境の整備、2. 学校、家庭、地域の連携と

青少年健全育成の推進、３．生涯学習の推進と環境整備、４．歴史文化遺産の保存活用と文化芸術活動の推進となっている。これを基本に、次期総合計画が作られ、教育大綱となると考えている。

丸山教育委員

第２次基本計画をベースに第３次が作られるということでよいか。今回、示された５つの基本目標が４つに分かれるかたちになり、後々、見ていくときに少し大変かと思うが理解した。

もう１点、英語教育について、基本的な方向性として特出しして取り上げられたのはよいことであると思う。八代市の子供たちの英語力が課題であることは、常々伺っていたので、必要であることであると思う。「外国語の勉強は好きですか」の割合を増やすことが、一番ベースとなり大事なことであると思うので、これが上がるような実践をしていただきたい。数値目標の中学３年におけるＣＥＦＲ　Ａ１を達成した割合が、現状２８．５％を５０％としてあり、高い目標ではないかと思うが、いかがだろうか。

加賀教育政策課長

全国と照らし合わせて高めていく必要があり、志は高く持ちたい。目標値に見合う取組を推進しなければならないので、しっかり課内でも協議をしていきたい。

中教育長

国か県の数値目標が６０％ではなかったかと思う。本来であれば、それと同等の数値を掲げなければならないが、現状からするとこの数値となる。

丸山教育委員

現状の２８．５％からすると厳しいと思った。

中教育長

数値について確認したい。令和５年度は３８．９％であり、令和６年度は２８．５％と下がっているが、数値の出し方はどのようなになっているのだろうか。同等の力を持った子供たちは含まれているのだろうか。

加賀教育政策課長

令和５年度までは、英語教育実施状況調査の数値をあげてある。英検３級の検定を受験していない生徒であっても、英検３級程度の力があると見込まれる生徒が含まれている。令和６年度は、英検受験料が全額補助となり、全員受験したことから、英検３級程度の力を持っていると思われていた生徒が不合格であったということである。数値として厳しい状況となった。英検の合格者は微増であるが、英語教諭の状況の実態把握に課題があったのではないかと考える。

渡邊教育委員

４点お尋ねしたい。通級指導教室利用者の割合について、

通級指導利用率は、小学校・中学校共に1.0を下回っており、低い傾向にあると記載されているが、どう捉えればよいか。望ましい傾向と言いたいのか、そうではないのか。

加賀教育政策課長 本来ならば、通級指導教室でもよいという子供がもっといると考えているので、望ましくないと捉えている。

渡邊教育委員 通級指導教室を学校に設置してほしいという希望があるが、なかなか設置できないという状況がある。設置率とも関係しているとも思うが、県や全国は1.0よりも高いのだろうか。

加賀学校教育課長 その点については把握していないので、確認したい。

渡邊教育委員 特別支援教育の関連で、「障害」という単語があるが、現行の教育振興基本計画では「害」はひらがな表記になっていたが、今回、敢えて漢字の表記にしてあるのか。

加賀学校教育課長 基本的にひらがなで表記しているので、確認したい。

渡邊教育委員 教育施設課関係で、基本的な方向性5 安全・安心な学校づくりの数値目標について、小・中学校施設設備の安全性や快適性が確保されていると感じる児童生徒及び教職員の割合が60.0%という数値は、どのようにして計るのだろうか。また、60.0%は低くないだろうか。

稲本教育部理事兼教育施設課長 以前、市内にお住まいの方をランダムに選び、調査が行われた。その時の結果が48%であった。毎年、そのくらいであり、その時の目標を60%としていた。今回は、小学校5年生と中学校2年生にアンケートを取り、割合を算出した。後から修正も可能ということで、低い目標値としている。また、児童生徒と教職員の意識の違いもあると思われることから、二段書きにすることを検討している。

田中教育部長 企画政策課で市の総合計画の関連で調査が行われた。児童生徒がいる家庭かどうかは構わず、ランダムに選んだ市民のアンケート調査の数値である。48%という結果は、我々も大変気にしている。調査対象を児童生徒や教職員に限ると、もう少しリアルな数値になるのではないかと。

渡邊教育委員 現場にいた感覚からすると、子供や教職員からは、もっと高い数値が出ると思う。子供にこのような安全性や危機意識に関するアンケートを取るのとはとても良いことだと思う。高い数値結果が出ることを期待している。

最後に生涯学習課関係で、基本的な方向性 7 生涯を通じた学習活動の推進の数値目標について、青少年体験活動講座を受講して自主性が持てるようになった者の割合は、どのようにして計るのだろうか。

泉生涯学習課長 受講した子供たちにアンケートを取っているが、質問に講座を受講して自主性が持てるようになったかどうか分かる内容を追加して、割合を算出したい。

渡邊教育委員 自主性という評価は、学校の通知表にも項目があるがとても難しい。これも難しいのではないかと思います、お尋ねしたところである。

泉生涯学習課長 表現を変えて、評価ができるような質問の項目にしたい。

中教育長 行事の効果を測るためにもアンケートはとても重要である。項目を工夫して、子供たちの意図を汲み取れるように実施していただきたい。

丸山教育委員 関係団体ヒアリングについて、今月末から実施されることであるが、本日の素案を見ていただいて、ご意見を伺うことになるのだろうか。また、団体ごとにヒアリングをされるが、市長のご意向としては、団体の代表者の意見だけではなく、幅広く市民の意見を聞いてほしいということであると思う。集まってこられる団体はいろいろあるので、どのような規模になるのだろうか。

押方教育政策課長 関係団体ヒアリングの方法については、今回お示しした素案に盛り込まれている目標や施策を見ていただき、ご意見をいただきたい。また、現場で取り組まれている感覚と計画に盛り込んでいるものに齟齬がないかという点も確認したい。団体の代表者にお話を伺うことになるが、構成員の意見も吸い上げたうえでお話を伺いたいと思う。市民の方からのご意見は、パブリックコメントで把握したい。

丸山教育委員 意見の集約等、いろいろな作業が出てくると思うが、大事なことであるので頑張っていただきたい。

中教育長 策定された計画は4年間は変わらないので、しっかり意見を聞いていただきたい。

早田教育委員 基本的な方向性 5 安全・安心な学校づくりの数値目標について、一つの案として聞いていただきたい。学年の段階に応じた防災教育を計画的に実施している学校の割合などにす

ると、学校でどう実施しているかについて把握できるのではないか。または、教職員が防災、危機管理対応研修を年に1回以上実施している学校の割合などはどうか。次に、子供の成果や意識を測るものとして、2つの案がある。避難所や避難経路の場所を知っていると回答した児童生徒の割合、家族や友達と防災について話したことがあると回答した児童生徒の割合とすると、知識や行動について、防災教育の効果が表れるのではないか。学校の施設については、現状でよいのではないか。

基本的な方向性7 生涯を通じた学習活動の推進についての数値目標について、リカレント・デジタル講座を受講して、既存の知識やスキルの向上を実感した者の割合の目標値が70%とあるが、個人が生涯学習としてレベルアップしたのはよいが、地域や社会に対して、その成果をどう還元したかを測るのはどうだろうか。例えば、町内の集会に、ラインを通して人を集めることができるようになった、講座で学んだことを活用して、集金などの地域活動に使用してみた人の割合などにすると、割合は低いと思うが、生涯学習として学んだことが社会に貢献できていることが分かるのではないか。町内でいろいろな世代の世帯があるなかで、お互いに連絡を取り合うのが難しいと感じることがあるので意見とした。

中教育長

今のご提案を踏まえて、より実効性のあるような数値目標になるよう検討していただきたい。

教育政策課に再確認であるが、今後どのように進めていくのだろうか。

押方教育政策課長

11月に関係団体ヒアリング、庁議、次長会に諮る。12月教育委員会定例会で再度、協議をお願いしたい。その後、議会に中間報告を行い、2月教育委員会定例会で最終案を議案として提出したい。

中教育長

再度、協議ということで案を出すことになる。教育委員の皆さまにおかれては、気付きがあった場合は、担当課や教育政策課へ連絡をしていただきたい。

5. 連絡事項

教育政策課 第2回総合教育会議(11/4)

学校教育課 八代市中体連駅伝競走大会県大会(11/7)

教職員ストレスチェック(11/3~11/16)

I C T教育推進モデル校研究発表会

(10/31 金剛小・弥次分校)

生涯学習課 家庭教育学習講演会「子どもの可能性を信じる力～逆境を越えた元世界王者が伝える、親子の

教育サポートセンター 絆」(11/6 八代市公民館)
 くま川教室中学部キャンプ体験
 (11/13～14 坂本青少年センター)
 くま川教室小中学部バス見学 (11/18 御船町)
 令和7年度「年頭研修会」講演収録 (11/28)
 博物館 文武に生きた筆頭家老・松井家ただいま参上
 (県立美術館 9/30～11/24)
 事務局 11月定例会日程確認 (11/21 14:00～)

6. 会議録署名委員の指名 渡邊委員・丸山委員

7. 閉会 (午後3時40分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

記録者
